



2025春闘で職場から創造した「ストライキ権確立」の教訓と課題を全組合員で学び、 組織の飛躍をかけて力強くバス関東労組運動を前進させよう！

ジェイアールバス関東労組は2025年5月21日13時30分、申6号「2025年度賃金引上げ・労働条件改善を通じて全組合員と家族の生活向上を実現するための申し入れ」について厳しい結果を判断して妥結した。2025年2月17日に開催した、第5回定期委員会で、労働三権に全組合員で向き合う「2025春闘方針」を決定してから、約4ヶ月が経過した。バス関東労組にとってこの4カ月は結成以来最も濃密で貴重な期間となった。

私たちは「2025春闘で賃金引上げを中心とした労働条件向上」を実現する為に、2月21日から3月5日にかけて「ストライキ権確立に向けた全組合員一票投票」を実践した。そして約120名の組合員と総対話で向き合い、「規約に定める2/3以上の賛成票を確認」して結成以来初の「ストライキ権を確立」して団体交渉に挑んだ。過去に一度も経験したことがない道は困難を極めた。だからこそ一つひとつの運動を闘争委員会で議論を積みあげて、道なき道を切り拓いてきたこの過程が何よりも重要だ。

途中、耳を疑うような外部からの誹謗中傷や妨害もあったが、組合員は物ともせず運動を進めてきた。言うまでもないが、春季生活闘争におけるストライキ権確立が私たちの目的ではない。大きな目的は、厳しい情勢下で仲間たちがバス関東労組運動を担い、組織を強化しさらに仲間を拡大することだ。そして、その組織力と団結力を背景に団体交渉力を高めて、「組合員の賃金引上げ及び労働条件向上と家族の幸せを実現する」その一点で厳しいたたかいを展開しているのだ。以前から私鉄系バス労組の仲間たちが常に実践するこの運動の到達点と課題を全組合員で共有し、「労働三権と組合員・家族の生活」をもっと身近なものにして、本来あるべき本物の労働組合へと一歩ずつ近づいていこう！

一方、計5回に渡る申6号と申8号交渉は困難を極めた。2024年度の営業利益5億6,500万円の黒字と営業利益率4.7%達成とは裏腹な「ベア4,000円」という低額回答。さらには交渉過程における不誠実な会社姿勢は「真実の姿」として私たちの眼前に立ち現れた。団体交渉で「私たちは経営幹部ではないからわからない」「私たちは伝書鳩」「団体交渉の場では決まらない」「議事録確認はできることなら結びたくない」という発言の根底に流れる企業権力の本質と向き合い、正し、改めない限り、本当の組合員と家族の為にある団体交渉の実現は不可能だ。その意味で私たちは東京都労働委員会へ申6号交渉過程における会社姿勢を「誠実交渉義務違反」として、あっせん申請を行ったが、会社は残念ながら、あっせんには応じなかった。「発言の一部を誤解し曲解されたもの」などと交渉にも参加していない外部の意思が買われる拒否理由を私たちは絶対に許さず、第三者機関活用の選択肢も視野に入れながら「形式だけの団体交渉・会社回答」から「信義誠実対等の原則に従い秩序を保ち平和裡に行う」団体交渉や労使議論の実現を全組合員とそれを支える家族の為に実現させよう。

2025春闘期間中に4名の仲間（東京3名、佐野1名）がバス関東労組へ加入を決意し新たな仲間となった。加入理由は様々だが、「組合員の為に真剣にたたかっている組合」という声がある。そして、今後も加入の意思を示している仲間たちがいる。また、闘争期間中に「どんな春闘結果になっても本部は自信を持って成果を打ち出すべき」と賛成票を投じてくれた仲間もいる。一方、「もっと準備万端で挑むべき」という厳しい本音の声を届けてくれた大切な仲間がいる。その組合員の実践を大きな力に変え、厳しい現実を乗り越えて、すべての仲間で作った「2025JTSU春闘」に自信と確信を持ち、次のたたかいに決起しよう！

最後に、闘争委員会を支えてくれた全組合員と家族、そして連帯するすべての仲間たちに感謝を申し上げて本部見解とする。

2025年5月30日
ジェイアールバス関東労働組合

2025賃金引上げ妥結に対する本部見解を発出！